

# 改良メダカの形質と品種分類

改良品種メダカの形質は、6種類（体色、目の変化、ヒレ変化、透明鱗、柄、体型）に分類されます。また、形質の組み合わせにより品種名が決まります。形質とは、目視で判別可能であり、子孫に遺伝する改良メダカの特徴としています。

## 例 朱赤透明鱗出目体外光更紗スワローヒカリメダカ

体色 透明鱗 目 虹色素胞 柄 ヒレ 体型

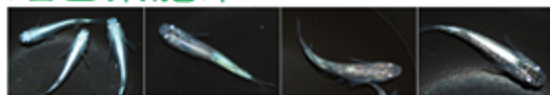
### ■体色

#### 単色



茶 (野生メダカ)	青	緋	白	黄金	朱赤 (楊貴妃)	琥珀	ブラック	ピンク	シルバー
野生メダカの体色。白、黄、黒、虹の4つの色素胞を有する。	白、黒、虹の3つの色素胞を有する。	白、黄、虹の3つの色素胞を有する。	白、虹の2つの色素胞を有する。	茶メダカから突然変異で産まれた黄金体色のメダカ。	黄金メダカから産まれた朱赤体色のメダカ。楊貴妃の名でブームに。	黄金メダカから産まれた尾ビレまで染まる琥珀体色のメダカ。	背地反応により黒色が薄くならないメダカ。	緑色（オレンジ色）とシルバーの中間色であるピンク体色のメダカ。	青メダカの各ヒレに黄色色素胞を発現する品種。

### 虹色素胞系



体外光 (幹之)	体内光	全身体内光	ラメ
背中に異所的に虹色素胞が分布して光沢を有する。	体外光と異なり、体内部に青い光を有する。	体後方に光を有する体内光とは異なり、全身に体内光を有する。	多くの鱗片にグアニン層が集まることでラメを形成。

メダカは4種類の色素胞（白、黄、黒、虹）を有しており、それらの組み合わせによって体色を形成しています。また、虹色素胞が分布する場所により、様々な光沢様の体色を形成します。

### ■目の変化



普通種	パンダ	ビッグアイ	水泡眼	アルビノ	スモールアイ	出目	目前
	眼周りの虹色素胞が欠損し、黒く見える。	体に対して目だけが大きくなる。	眼球の角膜が膨らみ、水泡が形成される。	メラニン色素の欠乏により、瞳孔は毛細血管の透過により赤く見える。	瞳孔が非常に小さく、保護色機能による体色の変化が少ない。	頭部が下にくぼむことで左右に目が突出している。	目が斜め前を向いており、正面から見るとメダカと目が合う。

目の変化は顔周りの印象を変えるだけでなく、体色にも影響を及ぼします。

### ■ヒレ変化



普通種	サムライ	背ビレ無し	ヒレ長	スワロー	メラー	新体型
	背ビレの鰭膜の一部が欠損し、背ビレが二枚に分かれる。	背ビレが欠損した品種。	各ヒレの軟条が伸長し、通常の個体より大きなヒレを有する。	各ヒレの軟条がランダムに枝分かれして伸長する。	各ヒレの鰭膜がランダムに成長しないことで、ヒレが複数枚に分断。	尾ビレだけが、ヒカリ体型のひし形の尾ビレに変化。

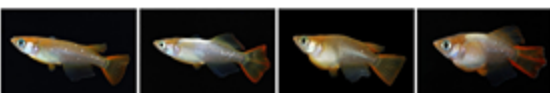
ヒレの変化により、改良メダカの泳ぎの魅力が多彩になります。

### ■透明鱗



透明鱗  
色細胞の欠乏によってエラが赤く見える。ヒレや体の色合いが変化する。

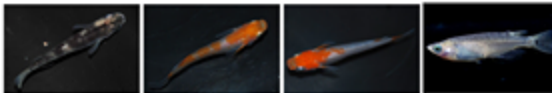
### ■体型



普通種	ヒカリ	ダルマ	ヒカリダルマ
	背骨を中心に、上下対称。腹部に集まっている虹色素胞が背中に転移。	背骨の数が少ないことで、体長が普通種体型の半分程度の体型。	ヒカリ体型とダルマ体型の特徴を取り入れた体型。

基本4体型と呼ばれており、品評会もこれらの体型ごとに部門が分類されています。ヒカリダルマ体型は飼育難易度が高く、優良個体は愛好家垂涎的のです。

### ■柄



錦	更紗	丹頂	ブラックリム
胴体の所々に、黒い模様が入る。	透明鱗の遺伝子により、胴体の所々の色が抜けている。	更紗の中で頭部のみ色が残り、胴体は白い個体。	鱗の縁に黒色の模様がある。体の色合いが変化する。